

住民説明会概要

日時：令和8年1月30日（金）

19：00～19：40

場所：住用公民館

質疑応答開始（司会）

【司会】

それでは、時間も限られておりますので、早速、質疑応答に入りたいと思います。質疑のある方、質問のある方は、挙手の上、氏名を述べた後にご質問をお願いいたします。なお、本日はこの後、皆さんのお声を参考にさせていただくため録音を行っておりますので、マイクを使用してお聞きくださいようお願いいたします。

それでは、質問のある方、お願いいたします。

【質疑】（住民）

奄美豪雨災害の場合もそうなのですが、住用は入れ替わりで水が入り、施設等に浸水する状況がありました。

私自身の体験として、会議室付近まで水が来ており、非常に危険だと感じました。報道ではあまり修正されていないようですが、実際に現場を振り返ってみると、水の流れが非常に速く、上流から一気に流れ込んでくる状況でした。

登校後の状況がどうなっていたのかという点も含め、この災害を踏まえた検討が必要ではないかと考えています。

また、個人的な計算になりますが、2035年を見据えた場合、水位が4メートルに達する可能性もあるのではないかと言われています。温暖化の影響によって、想定外の災害が発生する可能性も否定できません。満潮と重なった場合の危険性や、今後の推移についても、十分に考慮する必要があるのではないのでしょうか。

【回答：事務局 久保田】

奄美の防災については、私たちもこれまで多くの経験をしてきました。特に、2010年の奄美豪雨災害では被害が非常に大きく、特定の地域に限らず、ほぼ全域で被災したと認識しています。

そのため、全集落における避難状況について、現在も検討を進めているところです。やはり「命の安全」が最も重要であると考えています。当時は、がけ崩れや河川の氾濫、急激な増水が発生し、山からの水も一気に流れ込む状況でした。私の子どもも住用小学校に通っていましたが、水が引かず、2日間ほど帰宅できない状況もありました。

学校施設自体は比較的安全だったのではないかという印象もありますが、こうした点については、検討委員会の中で、詳細に調査し、検討していく必要があると考えています。本日いただいたご意見についても、しっかり受け止めたいと思います。

【質疑】(住民)

私は橋本と申します。

今年の春に「住用未来十年計画」が地域に配布されましたが、その中の二番目に「災害に強い防災まちづくり」、三番目に「将来を見据えたまちづくり」、五番目に「学校の在り方」が示されています。

災害に強い防災まちづくりという点で見ると、小湊や崎原などは、津波災害を想定し、高台に学校が設置されています。中学校も同様に高台にあります。一方で、住用地域には標高2~3メートルの低地に住宅が多く存在しています。

もし大きな災害が発生した場合、学校が避難場所として機能することが非常に重要になります。

仮に一つの学校に統合した場合、その学校が使えなくなったとき、住用から学校そのものがなくなってしまいます。学校を失わないためにも、住用と東城の二つの学校を残しておくべきだというのが、私自身の考えです。

アンケートを見る限り、住用から学校がなくなってもよいかのような印象を受けますが、それは地域にとってどういう意味を持つのでしょうか。

「未来十年計画」で掲げている「防災に強いまちづくり」と、学校を一つにまとめるという考え方は、本当に両立できるのでしょうか。

学校関係者だけで議論し、防災の視点を十分に考慮しないまま学校統合を進めるという考え方には、私は賛成できません。

最後に一言申し上げます。

「慌て者の早とちり」ということわざがあります。急いで結論を出し、後になって後悔することのないよう、十分に検討を重ね、地域の声を踏まえた判断をしていただきたいと思います。

高齢者になった後は知らない，ということにならないよう，将来を見据えた決定を強くお願いしたいです。

【回答：事務局 久保田】

検討委員会につきましては，現在も継続している状況でございます。検討委員会の中では，そうした手法や考え方も含めて，さまざまな議論を重ねております。

ただし，私どもが今後も情報を更新していく中で，引き続き検討会として調査や分析を行い，それらについて議論していきたいと考えております。

【回答：藤江所長】

防災関係について質問があります。地域創生戦略の中に「災害に強い地域づくり」という項目がございます。2010年の豪雨災害の教訓を踏まえ，防災については地域創生戦略の中に位置づけております。

防災に関する意見は多くの方からも同様の声が寄せられておりますので，次期の創生戦略の中で，防災についてはしっかり取り組んでいきたいと考えております。

また，防災は行政だけでなく，地域住民の皆さまと一緒に取り組むべきものだと思っております。

学校や避難所が今後どうなっていくのかという点についても，現在の学校が避難所となっている現状を踏まえながら，皆さまのご意見を伺い，検討を進めていきたいと考えております。よろしくお願ひいたします。

【質疑】（住民）

あと，何年ぐらいで決まるのでしょうか。

【回答：事務局 久保田】

現在進めている内容については，あくまでも検討段階であり，決定事項ではございません。関連する内容については，この場でご説明している通りでございます。

【質疑】（住民）

現在，子どもを二つの小学校・中学校に通わせていました。今，子どもたち

は複式学級の状況にあり、1学年が5人程度という規模です。

私は、子どもたちにとって良い勉強の期間、そして良い体験をさせていただきたいと考えています。ただ、複式学級ではどうしても授業時間が半分ずつになってしまうため、統合によってそれが解消されるのであれば良いことだと思っていました。

また、中学校の専任の先生がつくことは、とても良いことだと感じておりました。

しかし、先ほどの説明で、複式の解消にはならない場合もある、専任の先生が必ず配置されるわけではないという説明がありました。

どの程度の人数になれば複式が解消されるのか、その基準について教えてくださいたいです。

【回答：学校教育課 村岡課長】

ご質問ありがとうございます。

複式学級につきましては、例えば1年生と2年生を合わせて、16人を超えない場合に複式となります。17人以上になりますと、1年生・2年生それぞれが単式学級となります。

ただし、人数の推移を見ましても、現状では複式学級の解消に至らない可能性があるというのが実情でございます。

【質疑】（住民）

人口減少が進む中で、何人以上になれば単式になるのか、そういった基準自体が現状に合っていないのではないのでしょうか。地域ごとに変更することができないのか。

【回答：学校教育課 村岡課長】

これは国の基準で定められているものであり、地域ごとに独自に変更することはできません。国の基準が変わらない限り、本市だけで基準を変えることはできないという状況です。

【質疑】（住民）

学校の形態には、どのような種類があるのでしょうか。

【回答：学校教育課 村岡課長】

大きく分けて三つあります。

一つ目は、小学校と中学校が一体となった義務教育学校です。

二つ目は併設型で、同一敷地内に小学校と中学校がそれぞれ設置されている形です。

三つ目は、現在のように小学校・中学校がそれぞれ別々に存在する形態です。

児童生徒数が少ない場合、一つにまとめることで人数がある程度確保され、子どもたちの学びの場が充実するというメリットがあります。

一方で、少人数のままだと、同級生がいない、学年そのものが存在しないといった状況が生じることもあります。

【質疑】（住民）

小学校の先生が専門教科を教えるような形態もあるのでしょうか。

【回答：学校教育課 村岡課長】

教員は、それぞれが保有する免許に基づいて指導を行います。

義務教育学校や小中一貫校になりますと、小学校免許を持つ教員、中学校免許を持つ教員、両方を持つ教員が配置されます。

中学校の専門教科については、該当する教科の免許を持っていないければ指導することはできません。

小学校免許は全教科を指導できますが、中学校は教科別免許が必要となります。これが小学校と中学校の大きな違いです。

【質疑】（住民）

住用総合プールは直せないのか？

【回答：事務局 久保田】

過去の台風被害や道路整備の影響で、大雨の際に校庭や施設が浸水し、機械設備が故障した経緯があります。修繕はこれまでに複数回行われていますが、現在もプールは使用できない状態です。

今後、全面的に修繕するとなると、数千万円規模の費用がかかるのではないかと考えております。

【質疑】（住民）

私は住用小学校・住用中学校、大島高校を卒業し、その後東京で45年間生活しました。正直に言えば、学校時代の勉強は、社会に出てから必要になったものとは大きく違っていました。

社会に出てから学ぶことの方が多く、学校の勉強だけで社会を乗り切れるわけではありません。

現在の子どもたちは、少人数教育の中で、一人一人を大切に育ててもらっていると感じています。

大規模校では、どうしても目が行き届かない子どもが出てきますが、少人数には少人数の良さがあります。

学校の統合についても、学校側や先生方の都合だけで判断するのではなく、社会に出た後、子どもたちがどう生きていくのかという視点も踏まえて、幅広い意見を聞いて検討してほしいと思います。

【司会】

ただいまのご発言は、ご意見として承りました。ありがとうございます。他にご質問はございませんか。

(質問なし)

本日は大変お忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございました。

本日いただいたご意見は、今後の検討委員会において参考にさせていただきます。

これをもちまして、住用町内学校再編に関する住民説明会を終了いたします。お帰りの際は足元にお気をつけてお帰りください。